

を進めようという動きが出てくることも当然予想される。しかし、それは何ら根本的解決にはならず、むしろ買い物をする、あるいはそれと同じようなごく基本的な権利を制限する結果となる。

金沢市及びその周辺では小売業がめまぐるしく変化し、消費者もその動きに流されている。これからは、商業が都市という空間を形づくる能動的主体であることを念頭において小売業のあり方を考えていかななくてはならない。

注1：松任市、内灘町、鶴来町、津幡町、野々市町。

注2：金沢市の商圈をライリーの法則とコンパースの法則をアレンジした公式を用いて算出した。

A：金沢市 B：富山市、福井市

$$D = \frac{D_{ab}}{1 + \sqrt{\frac{P_b}{P_a}}}$$

D：A市から商圈境界までの距離

D_{ab}：AB都市間の距離

P_a：A市の人口(又は売場面積)

P_b：B市の人口(又は売場面積)

注3：石引、平和町、額、森本、玉川町など。

注4：一店舗で何でも揃う自己完結型の商業施設。

(北國銀行勤務)

NEWS

ノジコフ・イルクーツク州知事の講演会開かれる

5月16日(月)、金沢大学角間キャンパスにおいて、ユーリー・A・ノジコフ氏(ロシア連邦イルクーツク州知事)の講演会が本学経済学部主催により開かれた。

ノジコフ知事は、約200人の学生・研究者を前に「ロシアの現状と今後の展望 ―東シベリアを中心に―」と題して同国の政治・経済問題について解説した。昨年10月の武力衝突事件にいたったエリツィン大統領による最高会議の解散について「政治改革を進展させるためにはやむを得ぬ措置であった。」と述べたが、あの事件以外は、改革は安定的に行われたと説明。昨年12月に行われた新議会選挙と新憲法草案の国民投票の結果、地方の代表が参加する連邦会議が法案の成否を決定するなど重要な役割を果たす事となり、地方の権力が増大した事などを紹介した。経済面では生産高が減少し、インフレが進行するという現在の苦しい状況について述べた。しかし、5年前に比べ所得率は上がってきており、またインフレ率も今年



に入ってから若干の改善がみられること、さらに、出資流出の傾向も終わり、対外貿易収支が黒字になっている点も示した。

講演後は、学生から市民生活その他について盛んに質問が寄せられ、知事は一つ一つに熱心に答えた。森林伐採や、バイカル湖汚染等のイルクーツク州の環境問題についての質問に対しては、現在木材生産高が減少していること、またバイカル湖だけを対象とする自然保護の法律の提案がなされていること等を説明した。